

## ブルーカーボン生態系について

- 2009年10月に国連環境計画(UNEP)の報告書において、海洋生態系に取り込まれた(captured)炭素が「ブルーカーボン」と命名され、吸収源対策の新しい選択肢として提示。
- コンブやワカメ、アマモ等の海洋植物は「ブルーカーボン生態系」と呼ばれ、水質浄化、水産振興、海洋教育、CO2吸収源対策等の多面的な効果を生み出すとして、その活用推進が期待されている。
- 我が国の沿岸域においては、2019年時点で130～400万トンのCO2吸収量があると推計されている(土木学会論文より)。これは、森林等含む吸収源によるCO2吸収量全体の約6%に相当。

## ブルーカーボン生態系

## 【藻場】

大型藻類や海草が、濃密で広大な群落を形成している場所

## ○海草(うみくさ)藻場

主に温帯～熱帯の静穏な砂浜や干潟の沖合の潮下帯に分布  
(アマモ、コアマモ、スガモ等)



## ○海藻(かいそう)藻場

主に温帯～熱帯の静穏な砂浜や干潟の沖合の潮下帯に分布  
(アオサ、コンブ、ワカメ等)



## 【干潟】

海岸部に砂や泥が堆積し勾配がゆるやかな潮間帯の地形  
水没～干出を繰り返す



## 【マングローブ】

熱帯、亜熱帯の河川水と海水が混じりあう汽水域で砂～泥質の環境に分布  
(オヒルギ、メヒルギ、ヤエヤマヒルギ等)

